

「はだの第40回市民の日」野生動物救護の会 ブースにて

秦野市では、毎年11月3日の文化の日に「はだの市民の日」と題したイベントを秦野市カルチャーパークにて開催しています。今年は、『お宝いっぱい 夢いっぱい』をテーマに、神奈川県内で活動している約250団体が、歌やダンスなどのパフォーマンスをはじめ、飲食、手作り雑貨、体験コーナーなどのブースを構え会場を盛り上げました。この日は天気予報では曇・雨でしたが、実際には晴・曇で天気に恵まれ、会場は多くの家族連れでにぎわいました。

「野生動物救護の会」のブースにも、多くの方が立ち寄ってくださいました。用意した「野生動物救護の会」のパンフレットもたくさんの方に手渡すことが出来ました。「野生動物救護の会」のブースでは、『街で共に生きる野生動物たち』～傷つく彼らを守ろう～をテーマに、なぜ野生動物が傷ついてしまったのか、その主な原因には、ガラスへの衝突、交通事故、釣糸・釣針、伝染病・寄生中症、わな、誤認保護、マイクロプラスチックなどがあることをパネル展示で紹介しました。パネルを見ている方には、なぜ野生動物が傷ついてしまったか、その原因には私たち人間の生活との関わりがあることをスタッフは説明したので、野生動物を守るには私たちはどんなことに気をつけたらよいか、考える機会になったかと思います。

エディケーションボードとして参加したチョウゲンボウとオオコノハズクは小さくて可愛いと大人気でしたが、ケガで自然に戻れない実物の鳥の姿は、見る人の心に強く訴えるものがあつたと思います。この自然に戻れない鳥を見ている方には「野生動物救護の会」の活動についてスタッフは説明しました。ケガや病気で傷ついた理由で野生動物を保護した県民の方から自然環境保全センターに搬入された野生動物を「野生動物救護の会」では、救護し、自然に帰すボランティア活動と、自然に帰すことができない（自然で生きていけない）場合は、死ぬまで飼育（終生飼養）するボランティア活動をしていることを説明しました。何人かの方からは活動頑張って下さいと言われました。私たちの活動にご理解して頂き多くの方が野生動物救護のための支援募金をしてくださいました。募金された方には「野生動物救護の会」オリジナルの羽根しおり or 野生動物缶バッジを持ち帰ってもらいました。募金していただいた皆様、どうもありがとうございました。

この日は準備から、片付けまでと長丁場でしたが、参加されたスタッフの皆様お疲れ様でした。参加して大変さ、楽しさ、喜びを感じることができました。 小野茂生

